

2004年8月16日

アメリカ大統領 ジョージ・ブッシュ様

普天間基地の運用停止と即時無条件返還を求めます！

日本キリスト教協議会平和・核問題委員会
委員長 小笠原公子

8月13日、沖縄国際大学への米軍ヘリコプター墜落事故に、強く抗議し、私たちは、普天間基地の運用停止と、即時無条件返還を求めます。また、名護辺野古への海上基地建設も即時、白紙撤回を求めます。沖縄はもう十分すぎるほど、苦しんできました。私たちは声を合わせて、言います、“Enough is enough!”と。

敗戦後59年を経た現在でもなお、沖縄は、米軍基地とそこに駐留する米軍人による事故や暴力の被害に苦しんでいます。物理的・身体的な被害と同時に、精神的な被害の両面で、アメリカ軍基地の存在は、沖縄を苦しめているのです。

朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、そしてアフガニスタン侵攻、さらに現在も続くイラクへの一方的な侵略戦争と、アメリカは、アジア・中東地域の戦争に、日本、沖縄の基地をフルに使ってきました。この間、日本軍によって戦争の悲惨の中に引きずり込まれた沖縄の人々がどれほど苦しみぬいてきたか、想像もできません。悲惨を知る人々が、新たな悲惨を生み出し続ける軍事基地の存在を、心から容認できるはずはありません。

「正義」「平和」「自由」という美名のもとで、数知れない民衆が殺され、暴力を受け、生活を破壊されました。米国政府の大義名分のもとで、数知れない若い米軍兵士が死傷し、精神的に破滅してきました。

そして、米国は、沖縄辺野古の自然と民衆の生きる海を破壊して海上基地を建設しようとしています。

8月13日、日本では多くの人々が、すでに他界した、愛する家族や祖先の魂を思い、命のつながりあいを大切に、心を鎮める鎮魂のときを迎えていました。この日、沖縄国際大学に、米軍ヘリコプターが墜落しました。市民生活の只中に、人々の命を奪い国を奪うための軍事基地がおかれている不条理に、私たちは言い表すことのできない憤りを感じています。この事故の後、米軍は市民のための大学の構内にその主人公であるはずの学生も市民も入らせず、警察の守りの中で、事故の証拠を勝手に収集したということです。これは許すことのできない不正です。

事故により、近隣の民家の電線が切断され、市民が眠る窓ガラスが壊れたといわれます。このような危険の中に、沖縄はいなければならぬ理由がありません。

日本国による犠牲とされた多くの無名の魂の安らかな眠りを願いながら、今こそ私たちは、大切にしなければならぬ現在と未来の幾多の命のために、米国大統領に要求します、普天間基地の即時無条件の撤退を、辺野古海上基地建設の白紙撤回を、そして、沖縄から、「本土」からの、米軍基地撤去を！

軍事基地は経済利権を守るためには、世界中に配置したいかと思いますが、そのことが、戦争を生み出し、暴力を日常化します。米国は神を信じる人々としての証をするためにも、もっと謙虚になり、あなたがたの横暴な振る舞いが世界にどれほど大きな苦しみを引き起こしているか、正直に直視すべきです。

もう一度言います。もうたくさん(Enough is enough!)です。

私たちは、悲劇を繰り返させないためにこそ、国際協調による非戦・平和主義を高らかに謳っている日本国憲法を、正直に実現させるよう、努力し、日本国政府に要求していきます。

米軍基地を撤退させ、海や自然と共に生きるやさしいアメリカ人の友人として、改めて来日してください。そのとき初めて、私たちは、あなた方を心から歓迎するでしょう。

真の世界平和の実現のために、沖縄から、「本土」から米軍を撤退させてください。

